

Ⅱ 学生支援に関すること

問6 学生支援で心がけなければいけないこと

連携し、全学的な体制の整備に努力。

認定者が学生支援で心がけなければならないと考えていることで最も多いのが、「学内の関係機関との連携を図り、全学的な体制を整備する」で48.9%になっている。「教職協働を進める」(29.8%)も連携の必要性を示すものであり、連携して全学的な体制で取り組む必要性が大切なことを示している。

また、「学生の履修状態や生活状態をしっかりと把握して指導・サポートする」は34.0%であり、学生支援においては学生の実態把握が大切であると認識している姿が表れている。

学生支援で心がけなければならないこと（複数回答）

項目（選択肢）	回答（%）
① 学生の履修状態や生活状態をしっかりと把握して指導・サポートする。	16(34.0)
② 積極的に学生に話しかけ、コミュニケーションしやすい環境を作る。	14(29.8)
③ 学生からの相談に親身になって対応する。	13(27.7)
④ 研修等に参加して、学生支援に関する新しい動向や専門的な知識を身に付ける。	7(14.9)
⑤ 学内の関係機関との連携を図り、全学的な体制を整備する。	23(48.9)
⑥ 教職協働を進める。	14(29.8)
⑦ 学生サークルリーダーとの交流、連携を図る。	2(4.3)
⑧ 保護者と連携する。	1(2.1)
⑨ 学外の関係機関との連携を図る。	2(4.3)
小計（複数回答数）	92
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

以下は、副学長等のアンケート結果の表に掲載している。

「Ⅱ 学生の実態等に関すること」（17頁等）にも記載しているが、以下の問7～問9についても、スチューデントコンサルタント認定者と副学長等の結果には差異がみられる。今後の学生支援に当たって教職協働の必要性が指摘されているが、これらの課題に関する副学長等と認定者の差異に関しては大学関係者において十分考えていただきたいところである。

問7 学生支援の取組みに関する課題（8頁の問3の表に掲載）

学生支援の取組みに関する課題として、組織的な取り組み、専門知識の必要性、担当者の不足をあげる意見が多い。「学生支援の組織的な取組み、対応が不足している」が57.4%、「教職員の学生支援に関する専門的な知識が十分でない」が42.6%、「学生支援を担当する教職員が不足している」が40.4%になっている。

問8 学生支援の分野における課題（9頁の問4の表に掲載）

学生支援の分野における課題としては、「障害や病気等の課題を有する学生への対応」が74.5%と最も多く、次いで、「メンタルヘルス等の対応」が63.8%になっている。副学長等のアンケート結果をみても、同様の傾向が見られ、最近の学生支援の現場では、障害等の課題を有する学生への対応やメンタルヘルス等への対応が大きな課題となっている状況がみられる。

問9 学生支援に必要な専門性

学生支援に必要な専門性について、認定者はどのように考えているのか、教務関係、コミュニケーション能力、健康関係、学生が社会生活を営む上での観点等から、それぞれ必要な専門性について調査してみた。

(1) 主として教務関係の情報や知識 (11頁の問5(1)の表に掲載)

「教職員との連携」をあげる者が最も多く、「とても必要」(71.7%)と「必要」(28.1%)を合わせると99.8%になっている。教務関係では「修学・履修関係の情報や知識」(97.8%)、「学校教育法等の法令に関する情報や知識」(87.0%)が必要であることは当然であるとしても、教職員との連携が最も多いことは、今後の学生支援の問題として注目されることである。

他のアンケート結果でも教職員の連携の必要性に対する回答が高いことを考えると、教職員の意識改革を含め学生への対応の在り方について改めて検討が必要であることを示している。

(2) 主としてコミュニケーション能力等に関する専門性 (12～13頁の問5(2)の表に掲載)

学生支援ではコミュニケーション能力が必要と考えている者が極めて多く、担当者としては不可欠の能力であることをこの調査結果は示している。特に、「学生を支援するための相談力」が「とても必要」であるとの回答は71.7%で、「必要」と合わせると100%になっている。「学内や関係者との交渉力」、「学生や保護者、地域社会とのコミュニケーションの方法等」についても9割以上が必要と回答している。

(3) 主として健康等に関する専門性 (14頁の問5(3)の表に掲載)

健康等の面からは、全員が「健康や障害等に関する情報や知識(メンタルヘルス等を含む)」が必要と回答しており、「セクハラ・アカハラ等に関する情報や知識」も93.5%が必要と回答している。また、「薬物乱用防止等に関する情報や知識」も82.6%が必要と回答している。

学生の相談や指導に当たって、認定者のほとんどはこれらの専門的な情報や知識が必要であると考えており、副学長等に対するアンケートでも、ほぼ同様の結果が出ている。最近の大学、短大の特徴的な傾向、課題である。

(4) 主として学生が社会生活を営む上で留意すべき専門的知識 (15頁の問5(4)の表に掲載)

地震や津波、集中豪雨などの災害がたびたびテレビや新聞等で報道され、大学、短大においても危機管理の在り方について検討を行い、規定を整備しているところも多い。一方、カルト集団に加入する学生も増えているとの指摘がなされている。

このような状況を踏まえ、「危機管理、安全に関する情報や知識」が「とても必要」であるとの回答は34.8%、「必要」(54.3%)と合わせると9割になっている。「カルト問題に関する情報や知識」についても84.8%が、「差別問題に関する情報や知識」についても82.6%が必要と回答している。

問10 修学支援に必要なこと

修学指導では教員との接し方と保護者への説明が必要。

学生支援において最も基本で重要な修学指導について、スチューデントコンサルタント認定者は何が必要と考えているのだろうか。

「履修登録の方法やカリキュラムに関する情報・知識」が「とても必要」(60.9%)と最も多いことは当然であるが、次いで「とても必要」で多いのは「教員との接し方」(32.6%)、「保護者に対する説明等」(28.3%)となっている。「必要」を合わせるとどちらも8割を超えている。

教員との接し方や保護者への説明が修学指導では最も必要であるという実態は、学生支援の在り方を考える上で極めて重要なポイントを示唆している。

修学指導に必要なこと

項目(選択肢)		回答(%)
① 履修登録の方法やカリキュラムに関する情報・知識	とても必要	28(60.9)
	必要	16(34.8)
	あまり必要でない	2(4.3)
	必要でない	0(0.0)
② 教学に関する法規等の知識	とても必要	11(23.9)
	必要	25(54.3)
	あまり必要でない	9(19.6)
	必要でない	1(2.2)
③ 学習の仕方に関するノウハウ	とても必要	10(21.7)
	必要	24(52.2)
	あまり必要でない	11(23.9)
	必要でない	1(2.2)
④ レポート・論文等の書き方等の指導方法	とても必要	2(4.3)
	必要	18(39.1)
	あまり必要でない	23(50.0)
	必要でない	3(6.5)
⑤ 資料収集や調査等の方法	とても必要	6(13.0)
	必要	13(28.3)
	あまり必要でない	26(56.5)
	必要でない	1(2.2)
⑥ コンピュータやネットワークの活用方法等	とても必要	8(17.4)
	必要	28(60.9)
	あまり必要でない	10(21.7)
	必要でない	0(0.0)
⑦ 教員との接し方	とても必要	15(32.6)
	必要	26(56.5)
	あまり必要でない	5(10.9)
	必要でない	0(0.0)
⑧ 保護者に対する説明等	とても必要	13(28.3)
	必要	25(54.3)
	あまり必要でない	8(17.4)
	必要でない	0(0.0)
小計(スチューデントコンサルタントの回答数)		46(100.0)

(注) 比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問11 就職指導・サポートの課題

志望・進路が不明確で、連絡しても来てくれない学生もいる。

就職関係の課題としては、「学生の志望・進路が不明確なこと」が最も多く57.4%になっている。「学生への連絡が十分にとれないこと(学生は大学側に連絡してくれない。連絡しても来てくれない。)」についても29.8%になっている。

副学長等のアンケート調査では、「将来の進路を考え、目的をもって取組んでいる」が78.7%になっているが(23頁)、就職相談等を担当する認定者(職員)の立場からは、「学生の志望・進路が不明確なこと」が問題であるとする回答が多い。

また、最近の学生支援担当者のお話では、問題を抱えていてもなかなか相談に来ない学生がいることが問題であると指摘している意見もある。連絡しても来てくれない学生に対してどのように対応していったらよいかと困惑している状態がうかがわれる。

就職指導・サポートの課題（複数回答）

項目（選択肢）	回答（％）
① 学生の志望・進路が不明確なこと。	27(57.4)
② 学生への連絡が十分にとれないこと（学生は大学側に連絡してくれない。連絡しても来てくれない。）	14(29.8)
③ 学生に指導・助言しても学生はキチンと対応してくれない。	3(6.4)
④ 学生の相談に対応するためには企業や業界に関する知識が不十分なこと。	13(27.7)
⑤ 学生からOBやOGがどんな会社等にいるか質問されても、大学で実態が十分把握できていない。	4(8.5)
⑥ エントリーシートの指導が十分にできていない。	1(2.1)
⑦ 面接について指導が十分にできていない。	1(2.1)
⑧ 卒業生からの相談にも対応しなければならない。	1(2.1)
⑨ 就職先等に関して学生への親の意見や干渉が多く出されること。	8(17.0)
⑩ キャリアセンターと指導教員の連携が不十分である。	8(17.0)
小計（複数回答数）	80
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問12 外国人留学生への対応の課題

語学力と経済環境に問題。

外国人留学生との関係では、「留学生とのコミュニケーションが十分にできない」が46.8％で語学力の問題が影響しているもの考えられる。また、「経済問題（奨学金がもらえない学生への対応など）」が課題であるのは34.0％である。「住居問題（家賃の高いアパートが多いなど、留学生が希望する条件での住まいが足りない）」も基本的には経済問題といえよう。今後の留学生の受入れを考えると、奨学金や留学生宿舎の整備は大きな課題であることを示している。

外国人留学生への対応の課題（複数回答）

項目（選択肢）	回答（％）
① 留学生とのコミュニケーションが十分にできない。	22(46.8)
② 留学生の異文化適応問題（日本の社会制度や慣習などについて、留学生の理解が不十分で適応できないこと）	11(23.4)
③ 経済問題（奨学金がもらえない学生への対応など）	16(34.0)
④ 住居問題（家賃の高いアパートが多いなど、留学生が希望する条件での住まいが足りない）	5(10.6)
⑤ 生活習慣（留学生と家主や近隣住民等とのトラブル）	12(25.5)
⑥ アルバイト（アルバイトをしている留学生の実態がよく分からない）	5(10.6)
⑦ 学内と留学生支援体制	14(29.8)
⑧ 入国管理局等関係機関への対応	0(0.0)
⑨ 地元団体との対応（地域の留学生交流センター等）	1(2.1)
小計（複数回答数）	86
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問13 健康問題への対応

実態把握と疾病・障害等に関する基礎的な知識や対応例の理解が大事。

学生の健康問題への対応については、まず「学生の実態の把握」（48.9％）を行い、「様々な課題を有する学生に対して、それぞれの疾病・障害等に関する基礎的な知識や対応例を理解すること」（46.8％）であると考えている認定者が多い。その上で「学内関係機関との連携」（38.3％）により対応するという状況が示されている。

健康問題への対応（複数回答）

項目（選択肢）	回答（％）
① 学生の実態の把握	23(48.9)
② 学生のよき相談相手になること	9(19.1)
③ 学生同士の仲間作りと助け合いに関してサポートすること	5(10.6)
④ 様々な課題を有する学生に対して、それぞれの疾病・障害等に関する基礎的な知識や対応例を理解すること	22(46.8)
⑤ 保護者との連携	12(25.5)
⑥ 学内関係機関との連携	18(38.3)
⑦ 学外医療機関等との連携	2(4.3)
小計（複数回答数）	91
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。